

飼育下個体のための動物福祉を推進する 24/7アプローチ

サブリーナブランド & ハンナM. ブキャナンスミス

**ANIMAL
CONCEPTS**

要約

飼育下において動物が生き生きとした生活を続けるためにはその一生における経験が考慮されなければなりません。

24/7のフレームワークは動物のニーズを満たすことを提案するものです

※24/7とは、「24時間365日体制」という意味です。

このフレームワークは、Welfare Quality® (福祉品質) による12の福祉評価基準フレームワークに基づくものです。

これには、適切な食べ物、適切な施設、健康的に良好であること、適切な行動が見られること、という4つの重要な原則が必要です。この12の福祉評価基準を、動物園の福祉にもっと関連したものへと改変するとともに、福祉ニーズが満たされているかどうかを判断するために、2つの基準の追加を提案しています。

最重要点：

24/7の動物福祉のコンセプトは、昼夜、平日、週末、季節を問わず、飼育環境の変化に関して、各動物の自然史を考慮しながら、動物の生活環の特徴を詳細に示すための包括的な枠組みを提供するものです。

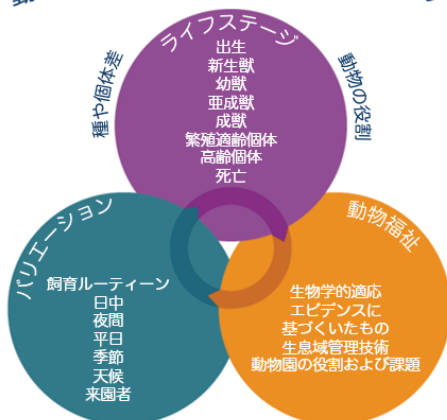
フレームワーク（図1）では、ライフステージの考察と調整、種や個体差との関係、動物の役割、バリエーション、および動物福祉に影響を与える他の要因との関係が求められています。

飼育下の野生動物の福祉を24/7のアプローチを用いて、どのように評価し、促進していくのかを理解することは、動物園や保護施設における主要な課題であり、責務です。動物福祉評価の決定、およびその実施は、資源（インプット）と動物に基づいたもの（アウトプット）双方のパラメータを考慮し、科学に基づいた情報を用いて行われます。

そのため、動物園動物のケアをする人は、提案された基準に基づき24/7（24時間365日）、最適な動物福祉を動物の生涯に渡って推進していくことを目指さなければなりません。

図1

動物の一生における24/7アプローチ



動物福祉評価のための14の基準

快適な食べ物や水：

動物に適切な給餌と給水がなされていますか



1. 空腹な時間が長時間続いていないこと
(つまり、自然な給餌間隔であること)
その他、肥満等の点についても考慮されていること

例：キソデボウシインコの採餌行動



2. 適切な食べ物とその種に適切な採餌行動をする機会が与えられていること

例：キソデボウシインコのエンリッチメント



3. 喉が渴いたままの状態が長時間続いていないこと
(十分な量の水へのアクセスが可能であること)

例：重要な水質の認識

快適な獣舎：

動物は適切な施設で飼育されていますか



4. 動物が休んでいる時（社会的に）、快適に過ごせるようになっているべきです。つまり、休息時や就寝時には、身体的に快適でリラックスした状態であること（常に警戒しているわけではない）。

例：実際の動物の動き
動物園でのクマの一生を豊かにする



5. 快適な温度が保たれていること
つまり、暑すぎず、寒すぎない、快適な
温度幅が維持されていること

例：メガネグマの子グマは母親の巣作りを助ける



6. 動物の本来の運動量に対して、自由に動き回るために
十分なスペースを確保していること（跳躍距離、
枝や棚、台の角度や向き、品質や量など）

例：デンバー動物園のテナガザル



7. 動物がコントロールできる環境であること
（つまり、複雑な展示場の中に動物がおり、
何を、いつするかを動物たちが選択できる
ようになっています）

例：動物がエンリッチメントアイテムを
選択するための選好評価
動物のトレーニングにおける選択の重要性

健康：

動物たちは健康ですか



8. 動物が皮膚病や運動障害等の疾病にかかっていない
状態でなければならない。

例：デンバー動物園
サンディエゴ動物園



9. 適切な衛生やケアの基準の下、動物が病気にかかっていない状態であること

例：ウェリントン獣医学センター



10. 不適切な管理、ハンドリング、捕獲、輸送による痛みがない状態であること

例：デンバー動物園におけるクレートトレーニング
オレゴン動物園



11. あらゆる状況において、きちんとした取り扱いがなされていること
(飼育担当者は、動物の視点に焦点を当て、ヒトと動物の関係性を向上させねばならない)

例：ヒトと動物の繋がり

適切な行動：

提供されている環境を含むケアは、良好な健康状態や感情を促進していますか



12. 動物は通常の、無害な、社会行動（毛繕いなど）ができる状態にあること

例：バーバリーマカク (*Macaca sylvanus*)



13. 動物がその他の正常な行動を発現することができること（つまり、穴掘り、探索行動、匂い付けなど、その種特有の自然な行動ができる状態であること）

例:カワウソのエンリッチメント



14. 恐怖、苦痛、欲求不満、退屈、無気力などの否定的な感情は避け、安心感や満足感などの肯定的な感情を促進しなければなりません

例：

メガネグマの揺れる木のエンリッチメント

なぜこれが動物福祉に関係しているのでしょうか

動物園などの飼育計画上のケアは、動物そのものの生物学的・心理的要求を考慮するのではなく、職員の都合でスケジュールが組まれています。職員が休んでいる時間帯も含めて、24/7（24時間365日）、動物が実際に正の動物福祉の状態にあるかどうかを評価すると共に、評価を行うための完全機能的なアプローチを統合する必要があります（図2）。

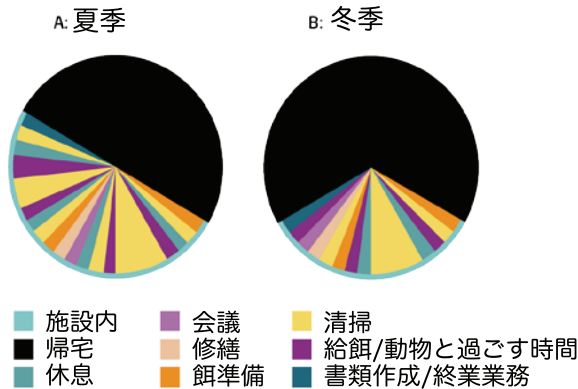


図2

なぜこれが動物の実際のケアと関係があるのでしょうか

動物のケアを実施する人には、動物のニーズや要求に合わせた環境を提供するという倫理的責任があります。動物福祉評価を日常的に行うことは、担当者のためだけでなく、動物のためにも良い経験となり、動物が心身ともに健康になる可能性が高まります。

原著

The 24/7 approach to promoting optimal welfare for captive wild animals. Behavioural Processes, Volume 156, November 2018, Pages 83-95.

こちらからお読み頂けます：bit.ly/2Ju88WE

翻訳：富澤 奏子



OMUTACITY
ZOO



PAWS

Practical Animal Welfare Science

ANIMAL
CONCEPTS